

老人のつぶやき

今年春、九州新幹線が開業する。

「浜武君、那珂川にある新幹線車両基地。元々、筑紫に出る予定やったよ。でも筑紫野町が反対してダメになった。できるときはよかったと」初老の老人はつぶやいた。

九州自動車道が開通した時もそうだ。筑紫野にインターが出てくる予定だったが、反対運動で太宰府に変更された。

その後、袖田幹人市長(当時)が「工業団地を造成して、その売上代金でインターを作る。市民にピタ一文払わせない」と公言してインターが出来た。しかし、工業団地の頓挫し、建設資金三一億円が市税から捻出された。

どうも、筑紫野は新しい事を受け入れる事を避け、大きな果実を手に入れない「任組」があるように見えて仕方ない。

選挙協力すれば食べていける

人口十万人。産炭地でもなく、大型倒産もない。天神も近く、職場もある。何故、筑紫野は停滞しているのか？

筑紫野市は政争の町だと人は云う。どの陣営につくかで、生活が変わる。市長選挙は鬼気迫るものとなる。

多数の職員、前議長が逮捕、副市長が辞職した。あの連日報道された山神水道企業団の偽計入札事件は、意外にも実刑判決は下されていない。それは、現金の授受でなく「選挙協力」が見返りだったからである。

田中範隆市長(当時)、「範帝会」「連理の会」と云う後援会組織があった。ここに入金(入金)しないと仕事の声がかからなかったのは故宮原利光議員や平原四郎議員(当時)の波及で明らかになったが、指名業者と選挙協力業者の一致は平原市政になってからも実は、変わっていない事が公判で明らかになったのだ。

依存 怠惰 満足 鈍感 そして混乱

「浜武さんのような選挙は平原さんにはできませんよ。平原さんは浜武さんのように仕事持っていないじゃないですか。必ず、どこかから(お金)借りてきてます」業者に依存した選挙(市政)を平原市長は断ち切れなかった。正に怠惰である。

他方、業者も怠惰になっていた。怠惰な慣れ合いのため、筑紫野市の委託費は高い。

はずみで筑紫野市のある施設の清掃業務の入札に福岡市の業者が参加した。地場業者の完敗だった。競争力を失っていたのだ。

仕事や選挙を丸投げに慣れてしまった職員や市長は次第に鈍感になっていった。図書館が国民の祝日のハッピーマンデーに閉館するのは「委託業者の都合」と市幹部職員は平気で云いきまってしまう。

職員は二倍以上の値段のフビー用紙を使い続けても「環境基準」と堂々とマスクミ対応していた事は記憶に新しい。筑紫野市は自主財源は一六〇億円なのに、かつて、投資的経費として一二〇億円が使われていた。

しかし、彼らは胸を張って云う「選挙の結果がすべてだ」と。

連鎖を断ち切り 皆で 創新 筑紫野

選挙はお金がかかる。そこに利権ができる。これが筑紫野市長選挙の歴史。これを断ち切るため浜武しんいちちは立ち上がりました。

十万人は凄い力です。パワーです。このポテンシャル(人口)があれば、市勢や商業、そして農業も浮揚しない訳ありません。先進自治体の仕組みを入れ、市民が参加したくなる街にし、十万人市民の智慧、働きを結集すれば、魅力ある街、筑紫野に必ずなります。

そのための舵取りを私浜武しんいちに任せて下さい。

皆様のお力(一票)を浜武しんいちにお預けください。お願いします。

私は戦います
どうか力をお貸しください



はまたけはばたけ
チャンネル開局

「浜武しんいち」とインターネット検索すると公式ホームページと動画で各種政策、資料がご覧になれます



